

令和7年度

## 杉並区立杉並第九小学校 学校評価

\*学校評価についてのお問い合わせは  
下記までお願いします。

杉並区立杉並第九小学校  
副校長 03-3390-0167

### 教員による校内の評価

#### 個別最適な学びの実現

##### 課題

- ・1年生にタブレットを配布する時期が遅く、あまり活用できていない。
- ・休み時間や授業中のタブレットの使用に課題があり、情報モラル教育については十分ではない。

##### 対策

- ・次年度は1学期中に配布できるように整備していく。
- ・生活指導部と情報部で作成した「タブレット使用のルール」を全職員が理解し、児童に指導していく。

#### 集団で学ぶ上で必要な学習態度の 確実な定着

##### 課題

- ・「杉九スタンダード」の一層の徹底が必要である。
- ・保護者にも周知していく必要がある。

##### 対策

- ・教員が日常的に課題を把握し、日々指導にあたる。
- ・4月の保護者会で「杉九スタンダード」の意図を伝える。また保護者と連携し、協力を仰ぐ。
- ・宿題に関しては年度当初に「家庭学習スタンダード」を児童と一緒に確認していく。

#### 学年の協働による専門性の高い 教科学習について

##### 課題

- ・多くの教員で児童を見ていくことで、同じスタンスで指導ができてとてもよい。また専門性の向上につながる。一方で、担任が受け持つ授業時間の確保が大変難しい。
- ・中学校と違い、全科なので、学年構成によっては引き続き同じ教科を担当するかどうか分からない。また自分の専門の教科を受け持つことができない可能性もある。

##### 対策

- ・時間講師の勤務体制によるが、できる限り時間割の調整を行い、担任の授業時間を確保する。
- ・どの教科を担当しても、専門性高く指導できるよう研修・研鑽を継続して行っていく。

#### 探究的な学習について

##### 課題

- ・各教科で身に付けた知識・学習方法等の活用や主体的・協働的に課題を解決する探究的な活動が十分に行えていない。

##### 対策

- ・「総合的な学習の時間」が単なる調べ学習にならないよう、児童の興味・関心から課題を設定し、スパイラルな探究学習ができるよう、全教員が「総合的な学習の時間」の在り方や学習方法について改めて学んでいく。
- ・キャリア教育についても、単発で終わらないよう、教科・領域と関連付けながら探究的な学びができるよう指導計画を見直していく。

## 学校評価委員会による評価

\*学校評価委員会は、学校運営協議会委員により、令和8年2月20日（金）に開催されました。

委員会の評価を考慮した上で、令和8年度の教育課程を作成し、学校運営協議会にて承認されました。

### 保護者対象・教育調査の質問項目「学校は、いじめを絶対に許さないという雰囲気がある」について

#### 主な意見

- ・ 数値だけでは分からないことがある。回答率が低い現状からも、項目に満足している保護者は回答しないケースがあると推察できる。数値だけで判断しない方がよい。また結果に対しての分析が必要である。児童の調査結果に対しても結果のみでは判断できない個々の背景や考え方を日々の児童とのかかわりの中でアセスメントしていく必要がある。
- ・ アンケートの設問の文言をもっと具体的にし、回答しやすいように変更していく必要がある。
- ・ 年度当初の保護者会や学校だより等で「いじめの定義」や「いじめが起こった場合の対応」についてしっかりと説明していくといいのではないか。
- ・ 子どもたちに「いじめ」について考える時間を設け、子ども同士で話し合う中で、「いじめは絶対に許されない」という意識をもてるようにしていくことが大切だと思う。
- ・ 先生たちの「いじめは絶対に許さない」という思いが子どもたちに十分に伝わっていないのではないか。子どもたちに伝わる姿勢で接していくべきである。
- ・ 自分を尊重できる子どもを育てていけば、自分だけでなく他者も大切にできるようになると思う。そういう子どもを学校・地域・家庭が一緒になって育てていけば、「いじめは絶対に許されない」という意識を強くもつことができるのではないだろうか。

### 保護者対象・教育調査の質問項目「学校は子どもが自分の興味・関心に基づいて、家庭、地域、民間団体や企業と連携している」について

#### 主な意見

- ・ 学校支援本部は、十分に地域人材や企業と連携し、学校と繋いでいる。回数の問題なのかどうかは分析する必要があると思う。
- ・ 保護者へのアンケート項目に「学校支援本部は知っているか」という項目を入れてはどうか。保護者が学校支援本部の存在やその働きを十分理解していないことも考えられる。
- ・ たくさん交流すればいいというわけでない。数値だけ見ていくのではなく、教育課程に基づいて行っていればそれでよいと思う。
- ・ 「子どもが自分の興味・関心に基づいて」という視点で、肯定率が低い可能性も考えられる。例えばキャリア教育についても、子どもたちから「こういう人の話が聞きたい。」という声を受けて、人や企業を探したいと思っている。先生たちの子どもたちへの投げかけから、子どもたちが課題を設定したり、学習計画を立てたりするようにしていけばいいのではないか。

## 教育調査の結果について

### 主な意見

- ・ 教育調査の結果は、あくまでも「指標」としての位置付けでしかない。調査の結果をすべて受け入れて、要望の通りに学校を変えなければならないということではなく、結果を「傾向」として捉えて、今の学校ができることを可能な方法で検討する。
- ・ アンケートを受けていると、回答に困るものもある。そうすると、どうしても「3」の「どちらとも言えない」を選んでしまう。アンケートの質問項目や文言をもっと分かりやすくしてほしい。